９修辞と鑑賞

Ａ　霜やけの小さき手してむくわが子①しのばゆ風の寒きに 落合

Ｂ　めるはハモニカを吹き夜に②入りぬもろこしの黄なる月の出

北原

Ｃ　をゆき子供のそばを通る時蜜柑の③せり冬がまた来る 木下

Ｄ　隣室によむ子らの声きけば心にしみて生きたかりけり 島木

Ｅ　とどまればあたりにふゆるかな 中村

Ｆ　の骨までててぶちきらる

Ｇ　露の玉④たぢたぢとなりにけり 川端

Ｈ　バスを待ちの春をうたがはず 石田

問１　―線部①～③をそれぞれ現代語訳せよ。

①＝〔　　　　　　　　　　〕　②＝〔　　　　　　　　　　〕

③＝〔　　　　　　　　　　〕

問２　Ａ～Ｄの短歌のうち、次の句切れに該当するものを記号で答えよ。

①　三句切れの歌＝（　　　）

②　四句切れの歌＝（　　　）（　　　）

問３　Ａ～Ｄの短歌のうち、次の技法が使われているものを記号で答えよ。

①　倒置法　＝（　　　）

②　体言止め＝（　　　）

問４　Ａ～Ｄの短歌のうち、次の説明に該当するものを記号で答えよ。

①　病の床にある人が作った歌＝（　　　）

②　子供と離れて暮らす人の歌＝（　　　）

問５　Ａの短歌と同じ季節の俳句をＥ～Ｈから選び、記号で答えよ。

（　　　）

問６　―線部④はどのような様子を詠んだものか。最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　不思議そうに見ている　　　イ　逃げ腰になっている

ウ　乗り越えようとしている　　エ　飲み込むのに困っている

オ　足をとられよろめいている

問７　次の鑑賞文に該当するものをＡ～Ｈから選び、記号で答えよ。

（同じ記号は二度使わない。）

①　嗅覚が季節を実感させる。 （　　　）

②　小動物へのほほえましい愛情が感じられる。 （　　　）

③　出歩けない子供は仕方なく音で遊ぶ。 （　　　）

④　幼いころに戻ったような心の弾みが出ている。 （　　　）

⑤　新しい季節の訪れを穏やかに詠む。 （　　　）

【解答】

問１　①しのばれる（思い出される）　②入った　③した

問２　①Ｂ　②Ａ・Ｃ

問３　①Ａ　②Ｂ

問４　①Ｄ　②Ａ

問５　Ｆ

問６　イ

問７　①Ｃ　②Ｇ　③Ｂ　④Ｅ　⑤Ｈ

ポイント

問２　「句切れ」は、散文であれば句点（。）がつく、意味上の切れ目。

問５　Ｅ「蜻蛉」＝秋、Ｇ「露」（露の玉）＝秋、Ｆ「鮟鱇」・「凍てて」＝冬。